

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270200161		
法人名	株式会社 菱南		
事業所名	ケアビレッジ下田 (さざなみ)		
所在地	静岡県下田市五丁目8番58号		
自己評価作成日	平成31年1月10日	評価結果市町村受理日	平成31年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2270200161-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、職員間で理念や情報を共有し、新しい知識を取り入れながら利用者様方1人ひとりに合わせた対応を行っています。グループホームという特徴を活かし、日頃から外食や自然と触れ合う機会を設けるべく、外出支援をより多く行える様にし、利用者様の笑顔ある生活を支えられるように努めています。また、施設運営を行うにあたり、当事業所では御家族様との信頼関係を非常に重要なものと考えており、利用者様についての連絡や報告を密に取ることで御家族様にも安心して頂ける様に心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海と山に囲まれ、四季の移り変わりを十分享受できる場所に事業所があります。訪問時も河津桜と菜の花が風に揺れる早春らしい景色が窓枠の向こうに見えました。一年を通し、猪や猿、ハクビシンなど野生動物が訪れ、利用者とは丹精込めて育てた作物や、毎年行事のように取組む干し柿が食べられてしまったこともあります。これもこのような自然豊かな恵みのある中での暮らしの一コマとして受け入れています。何事もプラスに考え、解決する力を持つ事業所では、目の前の坂の急さも利点として、車輛を使ってミニドライブに出かけ、出先で散策や外食を愉しむという取組みに力を入れており、利用者本人だけでなく、家族にも好評です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットごとに理念の掲示を行うと共に新人職員研修の内容にも理念の共有を取り入れ、理念への理解を深めやすくなる様に環境を整えている。	理念掲示は玄関、エントランスと各所に貼りだし、職員だけでなく来訪者の目にも入るよう配されています。会議の中でも引き合いに出して考察の一環としたり、新採者にも説明する時間を設けており、定着率が高いこともプラスに働き、自然に浸透しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者がこれまで暮らしていた施設と連絡を取るようになり、地域の行事への参加及び寄付をするなど、周囲の方々との関係を深められるように積極的に活動している。	地域の防災訓練では避難経路確認のほか、炊き出しにも参加しています。日頃から、外国人夫妻と立ち話する等近隣の皆さんとは友好的な交流があります。チラシでゴミ箱を作って持ち込んでくださる人がいたり、「金柑が実ったよ(取りにおいで)」と声をかけてくださいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が入居相談に来られた際、または問い合わせがあった時に認知症の方に対して当施設ではどのような支援を行っているのかを説明し、認知症の方への向き合い方について相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所職員、地域代表の方、利用者家族に加え、姉妹施設の関係者と共に会議を行い、発せられた意見や課題についてはユニット会議などを通じて職員間で共有し、サービスの向上に役立たせている。	昨年11月より法人内の他事業所と合同で運営推進会議をおこなうようになり、これから両事業所の連携を更に深め、より活発な意見が出るものと期待が膨らんでいます。人手不足等現実的なことを話し合うことができている、それによって法人も動く等有益に機能する場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	可能な限り市役所へと出向くようにし、話し合いや相談の場を設けている。2ヶ月に1度の介護支援専門員の連絡会に参加し、情報交換を行っている。	運営推進会議の開催案内や報告は定例とし、転倒事故等特変は欠かさず窓口に出向いており、月2～3回は直接会話をもっていて、フェイスTOフェイスの関係を築いています。また、2ヶ月に1回あるケアマネ連絡会にも努めて参加して、事業所間の連携にも配慮しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の立地条件から夜間のみ施錠をしてはいるものの、基本的には身体拘束の全面的禁止を掲げ、施設で定めた指針に則り、利用者と接するようになっている。身体拘束の研修などにも参加し、そこで得た情報を職員間で共有している。	法改正に基づきマニュアル・指針を備えて委員会設置にも取り組み、会議運営は既に4回終わっています。身体拘束排除に係る内容は新人に必ず説明をおこない、所内研修会も実施しています。また所内での課題はスピーチロックのみとして、管理者を中心に注視し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から利用者の身体や表情に異常はないか注意を払い、虐待が行われていないか目を光らせている。新人職員採用時に虐待行為についての説明や研修も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族や本人より権利擁護に関する問い合わせがあった時には説明できる体制を整えている。また、権利擁護にまつわる研修に参加し、そこで得た知識を職員間で共有するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書および契約書の内容について丁寧に説明を行い、利用者やその家族の理解と納得を得た上で手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話でのやり取りの際、または月に1度のお手紙にて、利用者の普段の様子を家族に伝えている。運営推進会議を開催した月には上記の手紙に加えて、会議の内容を議事録として同封している。	『ケアビレッジ下田たより』『ご家族様へ(医療健康面を主とする本人の日々の状態報告)』を毎月家族に届けて情報共有を図り、また思いがけず笑顔となった場面等ベストショットの写真付のため、「こんな笑顔見たことない」と家族も喜んでくださっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員との関係を密にし、意見を聞くように心がけている。利用者の状況や事業所の実状を理解している職員の意見については特に気に留め、必要に応じて代表者へ報告や相談を行っている。	運営に係る全体会議が月1回開催され、同時にユニット会議もおこなわれ、職員が協議に参加する機会を設けています。ただし、代表者と職員の距離が近い為、管理者を飛ばして進言してしまうことも間々あり、組織の報連相としては課題がある一方で、風通しが良いことが覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の欠勤などの就業実績や日頃からの就業態度、周囲とのトラブルの有無などについて把握し、報酬裁定の材料としている。また、処遇改善加算の新Iの取得など可能な限り職員の収入増に繋がるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がなるべく様々な研修に参加できるように勤務の調整などを行い、スキルアップしやすい体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の希望に応じて他施設の見学や研修などを行っている他、地域の介護事業所によって開催される合同研修会やリハビリテーションセミナーなどへも積極的に参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される以前の生活について詳細に家族や本人から聞き取りを行い、職員間で情報を共有し、良い関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や本人の立場を考慮し、しっかりと話を聞く事で信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅での様子を家族から聞き取ったり、契約前に利用されていた介護サービスや病院があればそれらのケアマネージャー・相談員から情報を得て、それらを基に初期対応を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どんな介護の場面においても常に利用者寄り添い、安心して生活して頂けるよう心がけながら毎日を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望に応じて電話連絡を行い、利用者の状況について家族に報告を行うと共に利用者自身と家族とで会話をしている。また、面会時には居室でゆっくりと過ごして頂き、外泊などの支援も家族と相談しながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住環境を依然と様変わりさせないようにする為、本人の愛用している家具などがあればそれらを持ち込んで頂いている。外出支援の際には本人の希望する馴染みの場所を訪問する事もある。	珈琲や日本酒、煙草など嗜好品を続けられるよう支援しています。また家族が好みのものを用意して化粧品やボディクリームでお洒落を満喫する人や職員の送迎で選挙に行く人、障害者施設からの入居者は古巣の祭りに里帰りして交流を図った、という例もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や関係性を把握し、利用者同士でのトラブルが起きないよう職員が間に入りながら、お互いを断絶する事無く、良い関係が築ける様に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の退所後もどのように過ごされているか様子を見る為に職員が病院や施設などへ面会に行っている。また、退所後であってもボランティア活動などで家族が訪問してくれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の利用者の発言や行動から嗜好や関心事を把握し、それらをケアに活かすため、職員間で情報を共有している。	本意や、毎日の中で話せなかったことなどは、居室で職員が1対1でじっくり聴く中で掴むことが叶っています。例えばお風呂に入るのを嫌がっていたケースでは、実は「お風呂は大好きだが衣服を脱ぐ行為が嫌」だったと傾聴を通じて判り、是正しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビューとアセスメントを通して本人や家族から情報を収集し、サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの1日の過ごし方を把握し、申し送りやケアカンファレンスなどで現在の状態や問題点について話し合いを行っている。利用者の状況に応じた個別対応をすることで改善に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、家族や本人から意向を確認し、モニタリングは6ヶ月に1回、再アセスメントは1年に1回実施し、計画書の見直しをおこなっている。サービス担当者会議も必要に応じて行っている。	食事、排泄、バイタル等チェック表を基に、職員からはカンファレンスで意見集約し、家族には面会または電話、看護師からは来所した折(週1回)に医療面を確認することを以て計画作成担当者が網羅し、介護計画書を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は誰が見てもわかるように、記入方法を統一し、介護支援経過記録と申し送りノートを使用して全職員が情報を共有できるような体制を作り、問題点があれば話し合いを設け、実践や介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業者が2つのホームを運営している事を活かし、利用者の状態に応じて柔軟な対応を取るなど必要な支援や情報共有を連携して行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が住み慣れていた地域にも出かけるようにし、地域性を考えた支援を提供している。地域の防災訓練に参加したり、運営推進会議に地域の民生委員の方を迎えるなど、周辺住民との連携を持ち対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係構築しながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は家族と本人に確認を取った上で、主治医と連絡を取っている。事業所の協力医院ではない場合は、家族と連絡を取り合い情報を共有している。	月1回の訪問診療がある協力医に15名が変更し、他3名は従来のかかりつけ医を継続しています。かかりつけ医は必要に応じての通院で、他科同様家族に付き添いをお願いします。協力医は夜間対応がなく、また大きな病院が地域に無いことが不安材料となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成30年7月より看護師が勤め始めた。看護師と利用者の医療情報を共有し、職員間で連携しながら適切な対応が出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院している際には、病院で医療担当者や家族から状態を伺い、速やかに対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常時医療行為が必要な場合は取り組みが難しいため、契約時に出来る事出来ないことを説明し理解してもらっている。	「看取りをおこなわない」ことを家族には契約時に説明し、合意形成できています。医師の指導の下、医療行為が必要となったり口径摂取できなくなったら、家族と相談し、本人の状態に十分対応できる施設を探す手伝いをおこなう等、移設にも支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が緊急時の対応が出来るようマニュアルを作成している。急変や事故発生時に備えて消防署などに出向き応用手当などの講習を受け実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間帯に火災が発生した想定で一般防災訓練を行っている。職員全員が1人であっても混乱せず避難および救援を呼ぶ方法を身につけられるようにしている。また、地域の防災訓練にも参加し一緒に炊き出しなどを行っています。	「(2ユニット2名の配置の為)夜間は職員数が少なくて心配…」と、職員から声が上がり、夜間想定を実施しています。また年2回の法定訓練の内、1回は消防署職員の立ち合いを求め、消火訓練・避難誘導・通報訓練などのメニューに取り組んでいます。	備蓄は2日分あればよいと消防署の指導を得たようですが、静岡県では7日と呼び掛けていることを鑑み、本当に大丈夫かを改めて精査することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホームは共同生活の間ではあるが、1人の時間も重要だと考え、食事やおやつ以外の時間以外は無理にフロアに呼び出す事はしていない。また、利用者は年長者であるという事を心得、特に言葉使いに注意を払っている。	新入社員研修には尊厳の項目も設け、入職時からの意識付けを旨とし、声掛け一つとってもマニュアルにより適切な方法が示されています。また同性介助の希望にも、男性職員が足りないため役員が現場補助に入るという協力を得て対応出来ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の場面では思いや希望を尊重し、本人の意思を大切にしている。また、自己決定が難しい人の場合は、その方の立場に立った考えの基に意思決定の一助となる様なサポートをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを把握し、その日の利用者の状態に合わせて、起床・就寝・食事の時間はなるべく1人1人の希望に沿うように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回散髪を行い、希望に応じて美容院に行ったり、髪染めを行っている。また、お化粧品を個人で居室に置き、自由におしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者には一緒に献立を考えたり、食事の準備や盛り付けなどに参加してもらっている。また、提供する食事の色合いや旬な食材を利用し、季節感を出すなど利用者「食べたい」と思って貰える様な工夫を行っている。	畑での収穫物も取入れ、買い出しから調理まで職員が一貫しておこなう安心で温かみのある食事が毎食提供されています。また代表者の持ち物であったピザ釜を譲り受け、最近ではピザやチキンを焼いて愉しめています。秋祭りには家族にも提供して好評でした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	歯や食欲の有無など利用者それぞれに適した摂取方法を考え、食事を提供している。利用者の状態に合わせて食べやすい工夫をし、水分などもトロミを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合った方法で口腔ケアを行っている、また、義歯使用の人には毎日入れ歯洗浄剤を使用している。2ヶ月に1回歯科の訪問診療がある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位の可否など利用者それぞれに合った排泄方法を考え、スムーズに排泄できるようにしている。排泄表を作成することにより排泄パターンを把握し、その人に合った方法で排泄できるように促している。	排泄をチェックして記録に残すことでリズムを掴み、「なるべくトイレで」「なるべく向上を」と工夫するも、本人が「リハパンが安心、布パンは不安」と、ワンランクアップへのチャレンジができないこともあります。無理に自立へ導くより、本人の気持ちを優先してケアにあたっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃からの利用者それぞれの排泄状況を記した排泄表を作成し、それを基に便秘の方には、乳製品の摂取や軽い運動を促し、下剤による排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の前には利用者に必ず声掛けを行い、本人の意思を確認している。本人の要望に応じて、入浴の時間や順番を調整するなどの対応を行っている。また、入浴剤や季節湯でその時々を季節を楽しんで頂いている。	職員が介助しやすい、スペースを十分とっている浴室です。重度化で湯船に浸かることができなくなった人と、浴槽に入るのが嫌という人、現在2名がシャワー浴となっていますが、週2日を清潔の目安として、一人ひとり湯も入れ替えて気持ち良く入ってもらえるよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣を考え、いつでもフロアや居室で休めるように環境を整えている。普段と比べて体調が優れない様子であれば、職員から声掛けを行い、居室などで休んで貰うように促すなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員がすぐに確認できるようファイルにまとめ、変更時などは看護師や管理者、リーダーから申し送りがあり、薬情を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴から得意とする事を考え、それぞれに適した役割をお願いしている。レクリエーションでは個々の趣味や興味があることを取り入れながら、楽しみのある生活になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて柔軟な外出支援を実施している。ユニットごとに出かけるだけでなく、交流を深めるためにユニット合同で外出している。また、季節感を重んじ、春季は桜見物など季節の特色を意識して外出支援を行っている。	月に2~3回は、海鮮丼や蕎麦、回転寿司などの外食に出かけて、リフレッシュしています。また地域の行事である紫陽花まつり、河津桜まつり、黒船祭り、水仙まつりには季節を感じるだけでなく、回想も兼ねて積極的に外出しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人または家族の希望に応じてお金を所持してもらい、一緒に買い物に行くなど使える場を提供している。個人で管理出来ない場合は家族の承諾の上、小遣金として管理し、欲しい物や必要な物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は自由に制限なく電話をしている。電話をしたい方は自由に連絡が出来るよう取り次ぎをしている。手紙やはがきが送られて来たときは本人に渡し、返信を出すときはあて名の確認や投函など手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアーには家族から頂いた生花を飾り、季節を感じて頂く。共有空間などには温かみを感じられるよう自然灯を使用し、ソファを多く設置し、ゆったりと時間が流れるようくつろぎの空間を作っている。	畑の手入れやウサギの飼育と、自然や動物に親しめる環境があるほか、大きくとった窓枠からは河津桜や翡翠色に光る海が広がり、目の保養には事欠きません。換気と清掃をこまめにおこない、快適な空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー内の家具の配置は、利用者に危険がないよう十分配慮し、身体機能に合わせた物を配置している。利用者の席の場所については利用者間の関係性などを考慮して設定している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が入所以前から使っていた家具を持ち込んで頂いている。家族に協力してもらいながら好みの品や記念品など、本人の特色が活かした部屋になる様に自由に配置してもらっている。	居室のレイアウトが本人本位(若しくは家族の要望)にできるよう、手すりが要所要所に配されており、実際各居室は様々な配置となっています。以前には仏壇の持ち込みもありましたが、現在はテレビやタンス等実用的なものが中心となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や丸みのある家具類を使用する事で安全かつ自立した生活が送れるような環境作りをしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270200161		
法人名	株式会社 菱南		
事業所名	ケアビレッジ下田(磯の香)		
所在地	静岡県下田市五丁目8番58号		
自己評価作成日	平成31年1月10日	評価結果市町村受理日	平成31年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2270200161-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、職員間で理念や情報を共有し、新しい知識を取り入れながら利用者様方1人ひとりに合わせた対応を行っています。グループホームという特徴を活かし、日頃から外食や自然と触れ合う機会を設けるべく、外出支援をより多く行える様にし、利用者様の笑顔ある生活を支えられるように努めています。また、施設運営を行うにあたり、当事業所では御家族様との信頼関係を非常に重要なものと考えており、利用者様についての連絡や報告を密に取ることで御家族様にも安心して頂ける様に心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海と山に囲まれ、四季の移り変わりを十分享受できる場所に事業所があります。訪問時も河津桜と菜の花が風に揺れる早春らしい景色が窓枠の向こうに見えました。一年を通し、猪や猿、ハクビシンなど野生動物が訪れ、利用者とは丹精込めて育てた作物や、毎年行事のように取組む干し柿が食べられてしまったこともあります。これもこのような自然豊かな恵みのある中での暮らしの一品として受け入れています。何事もプラスに考え、解決する力を持つ事業所では、目の前の坂の急さも利点として、車輛を使ってミニドライブに出かけ、出先で散策や外食を愉しむという取組みに力を入れており、利用者本人だけでなく、家族にも好評です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットごとに理念の掲示を行うと共に新人職員研修の内容にも理念の共有を取り入れ、理念への理解を深めやすくなる様に環境を整えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者がこれまで暮らしていた施設と連絡を取るようになり、地域の行事への参加及び寄付をするなど、周囲の方々との関係を深められるように積極的に活動している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が入居相談に来られた際、または問い合わせがあった時に認知症の方に対して当施設ではどのような支援を行っているのかを説明し、認知症の方への向き合い方について相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所職員、地域代表の方、利用者家族に加え、姉妹施設の関係者と共に会議を行い、発せられた意見や課題についてはユニット会議などを通じて職員間で共有し、サービスの向上に役立たせている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	可能な限り市役所へと出向くようにし、話し合いや相談の場を設けている。2ヶ月に1度の介護支援専門員の連絡会に参加し、情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の立地条件から夜間のみ施錠をしてはいるものの、基本的には身体拘束の全面的禁止を掲げ、施設で定めた指針に則り、利用者や接するようになっている。身体拘束の研修などにも参加し、そこで得た情報を職員間で共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から利用者の身体や表情に異常はないか注意を払い、虐待が行われていないか目を光らせている。新人職員採用時に虐待行為についての説明や研修も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族や本人より権利擁護に関する問い合わせがあった時には説明できる体制を整えている。また、権利擁護にまつわる研修に参加し、そこで得た知識を職員間で共有するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書および契約書の内容について丁寧に説明を行い、利用者やその家族の理解と納得を得た上で手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話でのやり取りの際、または月に1度のお手紙にて、利用者の普段の様子を家族に伝えている。運営推進会議を開催した月には上記の手紙に加えて、会議の内容を議事録として同封している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員との関係を密にし、意見を聞くように心がけている。利用者の状況や事業所の実状を理解している職員の意見については特に気に留め、必要に応じて代表者へ報告や相談を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の欠勤などの就業実績や日頃からの就業態度、周囲とのトラブルの有無などについて把握し、報酬裁定の材料としている。また、処遇改善加算の新Iの取得など可能な限り職員の収入増に繋がるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がなるべく様々な研修に参加できるように勤務の調整などを行い、スキルアップしやすい体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の希望に応じて他施設の見学や研修などを行っている他、地域の介護事業所によって開催される合同研修会やリハビリテーションセミナーなどへも積極的に参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される以前の生活について詳細に家族や本人から聞き取りを行い、職員間で情報を共有し、良い関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や本人の立場を考慮し、しっかりと話を聞く事で信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅での様子を家族から聞き取ったり、契約前に利用されていた介護サービスや病院があればそれらのケアマネージャー・相談員から情報を得て、それらを基に初期対応を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どんな介護の場面においても常に利用者寄り添い、安心して生活して頂けるよう心がけながら毎日を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望に応じて電話連絡を行い、利用者の状況について家族に報告を行うと共に利用者自身と家族とで会話をしている。また、面会時には居室でゆっくりと過ごして頂き、外泊などの支援も家族と相談しながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住環境を依然と様変わりさせないようにする為、本人の愛用している家具などがあればそれらを持ち込んで頂いている。外出支援の際には本人の希望する馴染みの場所を訪問する事もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や関係性を把握し、利用者同士でのトラブルが起きないように職員が間に入りながら、お互いを断絶する事無く、良い関係が築ける様に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の退所後もどのように過ごされているか様子を見る為に職員が病院や施設などへ面会に行っている。また、退所後であってもボランティア活動などで家族が訪問してくれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の利用者の発言や行動から嗜好や関心事を把握し、それらをケアに活かすため、職員間で情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビューとアセスメントを通して本人や家族から情報を収集し、サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの1日の過ごし方を把握し、申し送りやケアカンファレンスなどで現在の状態や問題点について話し合いを行っている。利用者の状況に応じた個別対応をすることで改善に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、家族や本人から意向を確認し、モニタリングは6ヶ月に1回、再アセスメントは1年に1回実施し、計画書の見直しをおこなっている。サービス担当者会議も必要に応じて行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は誰が見てもわかるように、記入方法を統一し、介護支援経過記録と申し送りノートを使用して全職員が情報を共有できるような体制を作り、問題点があれば話し合いを設け、実践や介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業者が2つのホームを運営している事を活かし、利用者の状態に応じて柔軟な対応を取るなど必要な支援や情報共有を連携して行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が住み慣れていた地域にも出かけるようにし、地域性を考えた支援を提供している。地域の防災訓練に参加したり、運営推進会議に地域の民生委員の方を迎えるなど、周辺住民との連携を持ち対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係が築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は家族と本人に確認を取った上で、主治医と連絡を取っている。事業所の協力医院ではない場合は、家族と連絡を取り合い情報を共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成30年7月より看護師が勤め始めた。看護師と利用者の医療情報を共有し、職員間で連携しながら適切な対応が出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院している際には、病院で医療担当者や家族から状態を伺い、速やかに対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常時医療行為が必要な場合は取り組みが難しいため、契約時に出来る事出来ないことを説明し理解してもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が緊急時の対応が出来るようマニュアルを作成している。急変や事故発生時に備えて消防署などに出向き応用手当などの講習を受け実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間帯に火災が発生した想定で一般防災訓練を行っている。職員全員が1人であっても混乱せず避難および救援を呼ぶ方法を身につけられるようにしている。また、地域の防災訓練にも参加し一緒に炊き出しなどを行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホームは共同生活の間ではあるが、1人の時間も重要だと考え、食事やおやつ以外の時間以外では無理にフロアに呼び出す事はしていない。また、利用者は年長者であるという事を心得、特に言葉使いに注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の場面では思いや希望を尊重し、本人の意思を大切にしている。また、自己決定が難しい人の場合は、その方の立場に立った考えの基に意思決定の一助となる様なサポートをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを把握し、その日の利用者の状態に合わせて、起床・就寝・食事の時間はなるべく1人1人の希望に沿うように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回散髪を行い、希望に応じて美容院に行ったり、髪染めを行っている。また、お化粧品を個人で居室に置き、自由におしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者には一緒に献立を考えたり、食事の準備や盛り付けなどに参加してもらっている。また、提供する食事の色合いや旬な食材を利用し、季節感を出すなど利用者にとって「食べたい」と思える様な工夫を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	歯や食欲の有無など利用者それぞれに適した摂取方法を考え、食事を提供している。利用者の状態に合わせて食べやすい工夫をし、水分などもトロミを使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合った方法で口腔ケアを行っている。また、義歯使用の人には毎日入れ歯洗浄剤を使用している。2ヶ月に1回歯科の訪問診療がある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位の可否など利用者それぞれに合った排泄方法を考え、スムーズに排泄できるようにしている。排泄表を作成することにより排泄パターンを把握し、その人に合った方法で排泄できるように促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃からの利用者それぞれの排泄状況を記した排泄表を作成し、それを基に便秘の方には、乳製品の摂取や軽い運動を促し、下剤による排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の前には利用者に必ず声掛けを行い、本人の意思を確認している。本人の要望に応じて、入浴の時間や順番を調整するなどの対応を行っている。また、入浴剤や季節湯でその時々を季節を楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣を考え、いつでもフローアや居室で休めるように環境を整えている。普段と比べて体調が優れない様子であれば、職員から声掛けを行い、居室などで休んで貰うように促すなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員がすぐに確認できるようファイルにまとめ、変更時などは看護師や管理者、リーダーから申し送りがあり、薬情を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴から得意とする事を考え、それぞれに適した役割をお願いしている。レクリエーションでは個々の趣味や興味があることを取り入れながら、楽しみのある生活になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて柔軟な外出支援を実施している。ユニットごとに出かけるだけではなく、交流を深めるためにユニット合同で外出している。また、季節感を重んじ、春季は桜見物など季節の特色を意識して外出支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人または家族の希望に応じてお金を所持してもらい、一緒に買い物に行くなど使える場を提供している。個人で管理出来ない場合は家族の承諾の上、小遣金として管理し、欲しい物や必要な物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は自由に制限なく電話をしている。電話をしたい方は自由に連絡が出来るよう取り次ぎをしている。手紙やはがきが送られて来たときは本人に渡し、返信を出すときはあて名の確認や投函など手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアーには家族から頂いた生花を飾り、季節を感じて頂く。共有空間などには温かみを感じられるよう自然灯を使用し、ソファを多く設置し、ゆったりと時間が流れるようくつろぎの空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアー内の家具の配置は、利用者に危険がないよう十分配慮し、身体機能に合わせた物を配置している。利用者の席の場所については利用者間の関係性などを考慮して設定している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が入所以前から使っていた家具を持ち込んで頂いている。家族に協力してもらいながら好みの品や記念品など、本人の特色が活かした部屋になる様に自由に配置してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や丸みのある家具類を使用する事で安全かつ自立した生活が送れるような環境作りをしている。		